



井奥まさきの 市政報告NEWS

2003・7
No.20
夏号

このNEWSは、無所属・市民派の高砂市議会議員井奥まさきによる市政レポートです。

「高砂タイタニック」 2005年末に冰山衝突の危機が！

高砂市議員
井奥まさき

八方ふさがりの高砂市財政
高砂市の財政は八方ふさがりです。事業削減は思うように進まず、勤労体育センターをはじめ、削減には大きな反発が起きています。土地開発公社（2面参照）など新たな不安要素も発生しています。高砂タイタニック号はまさに冰山に繰り返しぶつかりそうなのです。

平成17年（2005年）危機

平成15年（2003年）危機は、職員の大幅な人件費削減によりかるうじて回避しました。しかし、息つく間もなく、平成16年度予算編成、平成17年度予算編成と危機は続きます。さらに、

「平成17年までの3年間だけ辛抱を」とゴマカシを続けている現在の「行政改革」。この正体が平成17年（2005年）末には明らかになるでしょう。それは、さらなる「職員給与削減」「市民サービス切り捨て」という形を取らざるを得ないでしょう。

このままでは新図書館をはじめ、さまざまな新規事業は絶望的です。

問題を直視し、知恵を絞る現在、必要なのは「むやみに明るさを求める」「市長の権威にすがら」という方法ではないと思います。問題の厳しさと向き合い、徹底した議論によって道を探るしかないと思います。

その議論を回避しようとする「何でも賛成議員」や市長追従者の姿は、タイタニック号が冰山

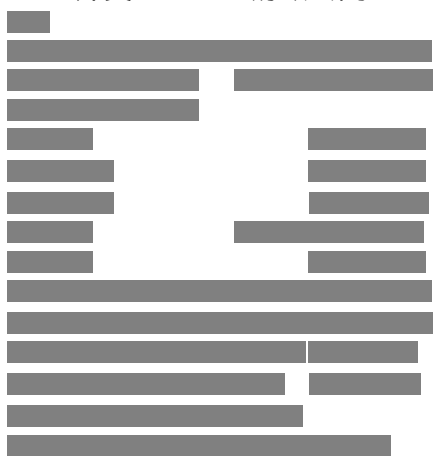
にぶつかってもダンスに興じていた乗船客と重なります。

高砂市議会が全国雑誌に明るい材料もあります。高砂市の議会が「ガバナンス」という全国雑誌に「日本一活発な議会」として紹介されました。きちんと議論をする高砂市議会の優秀さが認められたのです。

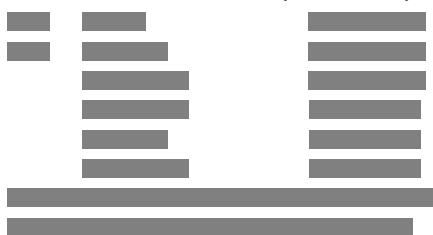
議会の役割は、常に警告を發し、市政運営の行く先の安全を確保すること。

私はタイタニック号にはいなかった「優秀な見張り番」として冰山を見つけ、警告を發し続けます。

井奥まさきの財政公開



14年度会派政務調査費（井奥・鈴木）



井奥が答える その1 自治体破産すればいい？

きれいな「破産」というのは、ありえません。県も「全国はじめての赤字再建団体」を回避するでしょう。例えが悪いですが、「植物人間」状態になるのが「危機」なのです。

井奥が答える その2

よそは皆、シャンシャン議会

本会議が短時間で終わる他の議会は「徹底した根回し」を行います。高砂市行政には「理屈」も「根回し」も不足している点が問題なのです。

行政職員・議員向け全国誌 ガバナンス 7月号より

「ガラス張り市政」を求めて

全部オープン
に

今回はテーマを「情報公開」に絞りました。
市長、行政、議会 それぞれへの公開を迫りました。
ハードではなく、ソフトでの「ガラス張り」を求めました。

市長の行動を「ガラス張り」に

面会者の記録をつけ、市長のスケジュールを公開してはどうですか

田村 市長 私自身は秘密にしているわけではない。公開について研究していく。

毎日新聞
2003.6.26



入札を「ガラス張り」に

明石市、加古川市が導入している郵便を利用した入札により談合防止を

田村 市長 相生市や高知県の情報を収集しながら研究していく。

議員の要望を「ガラス張り」に

議員要望を文書にして情報公開をし、「口利き」防止を

田村 市長 本年度から調査研究をし、早期導入にむけて積極的に研究していく。

お金がなくてもできる、即効性のある提言をしました。しかし、市長は『研究していく』という形式的な答弁に終始しました。

総務委員会より

土地開発公社の経営悪化すすむ

～100億円の土地、処分見込みはわずか5%～

構造改革特区は認められたが...

高砂市の財政に新たな不安要素が急浮上してきました。サントリーのそばにある「工業公園」の賃貸がほとんど進まないのです。

高砂市は「構造改革特区」を申請して、売却が基本である土地開発公社用地を「賃貸」することが認められました。しかし、制度はできても、借り手がつかず、6月議会時点での見込みは2社のみ。

全体のわずか5%にしかすぎません。

利子は年間2億円以上

一方で利子は恐ろしい勢いで増え続けています。予算ベースで年間2億円以上にもなり、今は「隠れ借金」として表にはでませんが、いつかは払わねばならない借金です。

今こそ、新しい発想で土地売却を

私は「3カ月ごとに委員会に報告をしてもらい、進行を厳しくチェックすべき」と主張しました。また、「都市計画の線引き見直しも含め、新しい発想が必要では」という声も多くあがりました。

このままでは高砂市の命取りになります。早急に手を打つことが必要です。

不透明な 600 万円の委託費 復活の意 味は？ 学者言いなりの市史編さん事業 —— 将来負担は、総額 3 億円以上！

3月議会の予算修正がムダ
3月の時点で、私たちは「市民サービス切り捨て」より「市史編さん事業凍結」という選択をしました。しかし、6月議会で市長は市史編さん事業の復活を提案しました。

平成 23 年（2011 年）まで、毎年 400 万円弱をつぎこみ、7 巻を完成させるというのです。総額 3 億円以上の事業です。

生活より家系図？

鈴木議員は「まるで、生活必需品を削り、家系図を大事にするかのような政策」と批判しました。

「今までの事業費がムダになる

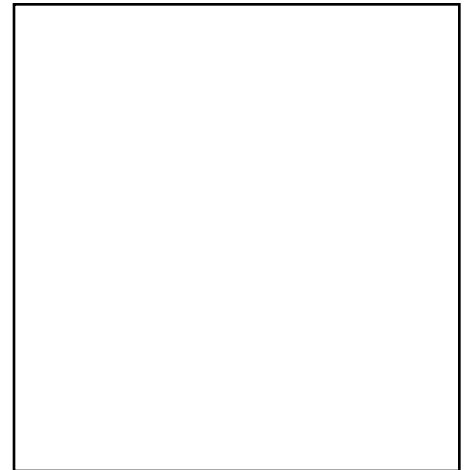
から」というのが行政側の言い分ですが、この論理はまさしく公共事業を「やめられない」とする論理。また、それならば裁判まで起きている「新図書館」「複合福祉センター」など「ムダな計画立案」はどうなるのでしょうか。

どうも復活の主な理由は「学者に『凍結なら関わらない』と厳しい言葉を言われたから」ということのようにです。

600 万円の不透明な委託費

また、井奥議員の質問で、

- 1) 市民から正式な復活の声は一通も届いていないこと、
- 2) 予算の中にある委託費 600 万円は学者に対して「バラマキ」的



に使われていること、
が判明しました。

にもかかわらず、賛成多数で事業は復活。今後は、「学者の言いなり」にならない予算執行が求められます。

職員の数、給与 どの水準が適正か？

～ 8 月に向け、議論が必要～

定員適正化計画の第一次は大失敗に終わりました。退職者が 219 名に対し、194 名もの大量採用が失敗の原因です。

第二次計画は 4 月に右に示した方向性を出しました。8 月末にはさらに詳しい計画を示す方針だそうです。

人件費削減には、「施設の統廃合」「業務量の縮小」「民間委託」「給与水準の削減」とさまざまな要素が複雑にからみあいます。8 月に向け、きちんとした議論が必要です。

第一次計画の失敗

15 年（2003 年）は推定

	1999 年 (11 年)	2000 年 (12 年)	2001 年 (13 年)	2002 年 (14 年)	2003 年 (15 年)	合計
職員数	1,416	1,407	1,413	1,399	1,391	
削減計画数	2	9	12	9	17	49
増減数	0	9	6	14	8	25
退職者数	40	46	42	51	40	
採用者数	40	37	48	37	32	

今後の予測

2002 年（平成 14 年）11 月現在

	2004 年 16 年	2005 年 17 年	2006 年 18 年	2007 年 19 年	2008 年 20 年	合計
職員数（4 月 1 日）	1,371	1,355	1,336	1,316	1,285	
増減数	20	16	19	20	31	106
退職予定者数	20	19	24	38	55	
採用予定者数	0	3	5	18	24	

6月議会では再び行政に、「財政再建」より「事業優先」の姿勢が見られました。

「過去の反省より未来」との合唱が「何でも賛成議員」と市長追随勢力から起きていますが、私たちは、過去の財政運営をきちんと反省し、失敗を繰り返さないことが大事だと思います。

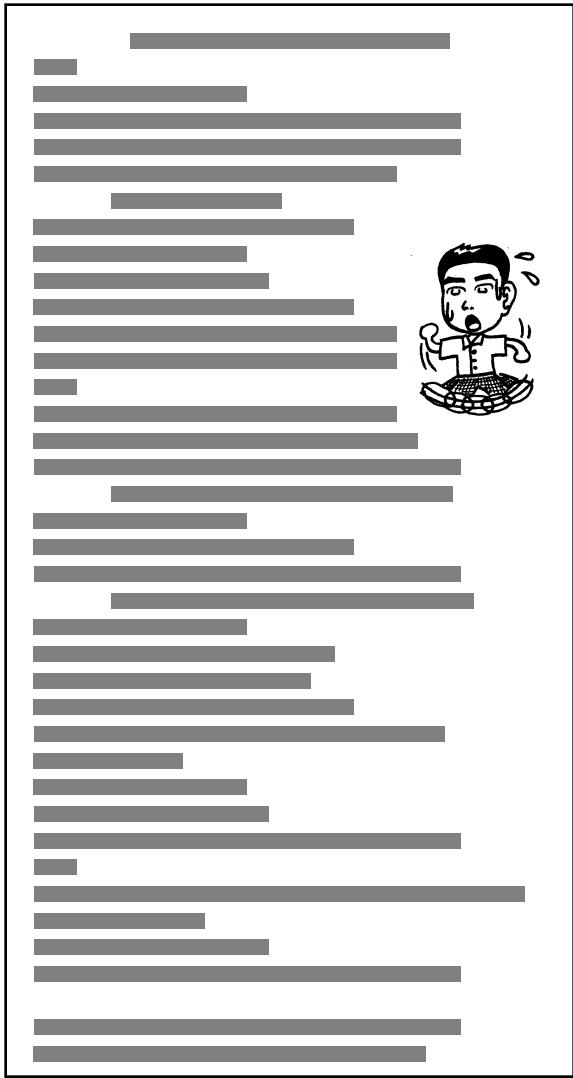
財政調整基金がわずかに5800万円！

過去最低のレベル

財政調整基金が過去最低となりました。

高砂市の市税収入は約170億円。県下トップクラスです。なのに財政状況が県下22市中で最悪と言われているのは、「貯金のなさ」が原因なのです。

それがわかっていながら、今回の補正予算で財政調整基金を更に取り崩した「事業優先」の姿勢にはあきれざるばかりです。その結果、過去最低レベルの5800万円（カネカからの寄付金3800万円をのぞく）という異常な数字になりました。もちろん、22市中で最低（予算に対する割合）です。今こそ必要だったのは、「やらない勇氣」だったのですが。



議員報酬と定数は何が妥当か？

～ネット上で活発な議論～

報酬5%削減と定数4減に「不十分」と厳しい指摘前号で議論を呼びかけたところ、ネット上で連日のように大議論となりました。1日平均300程度アクセスいただきました。

その中で、右のように「民間人」さん他から「不十分」との多数の意見をいただきました。確かに、個人の思いと実現できるところにはギャップがあり、今の結果に100%満足はしていません。しかし、そこを「自分は違う主張はした」と言い訳をしたくありません。今の「不十分」との批判を自分の責任として受け止めます。

市民の声（さらなる定数減と報酬削減）は、3年後の行財政改革見直し時期（平成17年、2005年）に再度議論するよう努力したいと思います。

徹底した議論こそ「高砂市再生」への道

私はこのように徹底的に議論すること。その中で間違いに気づき、新しい視点を生み出すことこそ、高砂市再生の有効手段だと思います。私のホームページがその実験場になればいいと思っています。あなたもぜひアクセスと書き込みを。<http://ioku.cool.ne.jp/>

間違いを認めたのなら、報酬と定数は？
議員報酬、定数の削減で相違した意見をビラ、書き込み、共同提言でしていた間違いをあなたは素直に認めましたが、その責任はどのような形でとるのででしょうか。
例えば次のビラで、「このような間違いをしてましたが、報酬はもっと下げるほうがいいです。定数は20が適切だと考えてます。」と市民に再度説明すべきでは。（井奥まさきのホームページ掲示板より「民間人」さん）
<発言は井奥が一部編集しました>

市政にこんなことを望みたい！
これはどうなっているの？
市政・市民相談受けつけます
あなたの近くでも市政報告会を企画して下さい。何人でも結構です。市内どこでもかけつけます。